

2025年度 自己点検・評価 報告書

学校法人 麻生塾
専門学校麻生工科自動車大学校

自己点検・評価報告書

この自己点検・評価報告書は、専門学校麻生工科自動車大学校の2025年度の自己点検・評価活動の結果を記したものである。

作成日 2026年 1月 31日

専門学校麻生工科自動車大学校

目次

| | |
|-------------------------|--------|
| I 教育理念・教育目標(育成人材像)..... | - 3 - |
| II 重点項目..... | - 4 - |
| III 基準項目 自己点検・評価..... | - 5 - |
| 基準 1 教育理念、目的、育成人材像..... | - 5 - |
| 基準 2 学校運営..... | - 6 - |
| 基準 3 教育活動..... | - 10 - |
| 基準 4 学修成果..... | - 15 - |
| 基準 5 学生支援..... | - 17 - |
| 基準 6 教育環境..... | - 19 - |
| 基準 7 学生募集..... | - 21 - |
| 基準 8 財務..... | - 22 - |
| 基準 9 法令遵守..... | - 23 - |
| 基準10 内部質保証..... | - 24 - |
| 基準11 社会貢献・地域貢献..... | - 25 - |
| 基準12 国際交流..... | - 26 - |

評価結果

- 3:基準を満たしており、特筆すべき取り組みを行っている
- 2:概ね基準を満たしている
- 1:基準を満たしておらず改善が必要

I 教育理念・教育目標(育成人材像)

① 教育理念

一流技術者として広く国内外で活躍できる確かな技術と知識、コミュニケーション力を備え、感謝心や他者を思いやる気持ちを持つ社会性豊かな学生を輩出する。

② 教育目標(育成人材像)

【1級自動車整備科】

4年間で一級自動車整備士資格取得を目指す。幅広い高度な整備技術能力(新しい電子制御機構や新技術にも対応できる総合診断力)とビジネス感覚を身につけた整備技術コンサルタントとしての人材を育成する。さらに、環境保全や安全管理の学習を通して、職場や地域環境保護に対しても先導的な役割を担うことのできる人材を育成する。

【2級自動車整備科】

2年間で二級自動車整備士(ガソリン・ディーゼル)資格取得を目指す。整備業界で即戦力として活躍できる整備士としての基礎技術を身につけた人材を育成する。また、新しい電子制御機構や現在の整備作業の傾向に合わせ、正しい診断技術をも含めた整備及び検査ができる人材を育成する。

【国際自動車整備科】

3年間で二級自動車整備士(ガソリン・ディーゼル)資格取得を目指す。日本企業が求めるビジネスコミュニケーション力および整備業界で即戦力として活躍できる整備士としての基礎技術を身につけた人材を育成する。

【自動車工学・機械設計科】

4年間で二級自動車整備士資格取得とモノづくりの知識を学ぶことで、自動車の開発技術の習得を目指す。また、豊かな人間性と創造力を兼ね備え、実践的教育を通じて会社に貢献できる開発エンジニアを育成する。

Ⅱ 重点項目

1. 重点項目

- ①自動車整備士資格の変更に伴う自動車整備科のカリキュラム変更ならびに新設された総合自動車エンジニア科のカリキュラム作成
- ②学生の学びを効率的・効果的にする教育のデジタルトランスフォーメーション(DX)化

2. 取組み状況

- ①2025 年度から始まった二級自動車整備士養成課程においては1年次のカリキュラムは新資格に対応済み、2年次のカリキュラムも急ピッチで作成し、2026 年度に間に合う見込みが立っている。一方で2027 年度から開始される一級自動車整備士養成課程においては、2026 年3月に発行される教科書を待つための準備となるため、具体的には進んでいない。
また、総合自動車エンジニア科の後半のカリキュラムに関しても大枠は完成しているが、細かい部分が決まっていない科目もある。2027 年度開始に向けて、企業のニーズなどを反映した授業内容になるよう検討を重ねている。
- ②学校教育法等の改正に伴い、単位制に対応すべく基幹システムの入替えを継続して行っている。これに学習管理システム(LMS)を搭載し、デジタル教材を効果的に使用できる環境が整いつつある。

3. 総括(成果と課題)

カリキュラムの完成を受け、現在は教育の質をさらに高める実践フェーズへと移行している。特に二級自動車整備養成課程においては、日本人学生と留学生が共に学ぶ多様性に富んだ環境があり、一人ひとりの習熟度に合わせた柔軟なアプローチが求められている。

このニーズに応えるため、LMS による個別最適化学習の推進や、生成 AI を活用した直感的な教材開発など、教育の DX 化をさらに加速させていく。現状では教員間での取り組みに差がみられるが、これまでの成果を土台としつつ、教職員が一丸となって新しい教育スタイルに挑戦できる体制づくりを課題として取り組む。

Ⅲ 基準項目 自己点検・評価

基準 1 教育理念、目的、育成人材像

中項目1-1

法人の理念、学校の教育理念、学科の教育目的・育成人材像を定め、学校構成員に周知を図り、社会に公表しているか。

【取り組み状況】

学校法人麻生塾では、法人の理念を明文化し、これを基盤として学校の教育理念および学科ごとの教育目標(育成人材像)を定めている。各学科においては、関連業界のニーズを踏まえた教育目標や育成人材像の検討を行い、教育内容との整合性を図っている。これらの理念および目標については、学校の公式ホームページへの掲載や学校案内等を通じて社会に対して公表するとともに、学生便覧にも記載し、教職員および学生への周知を行っている。

【課題及びその改善方策】

特になし。

| 小項目 | 評価項目 | 自己点検・ 評価結果 |
|-------|--|---------------|
| 1-1-1 | 「学校の教育理念」を定め、学校構成員(すべての教員、職員、学生)及び関連業界に周知を図り、社会に公表しているか。 | 2 |
| 1-1-2 | 各学科の教育目標(育成人材像)を定め、学校構成員(すべての教員、職員、学生)及び関連業界に周知を図り、社会に公表しているか。 | 2 |

=====
 基準 2 学校運営
 =====

中項目2-1

学校の教育理念に沿った運営方針を定めているか。

【取り組み状況】

本校では、学校の教育理念を踏まえた運営方針を策定し、学校運営の基本的な指針として位置付けている。策定した運営方針については、教職員会議等を通じて教職員に周知を図り、日常の学校運営や教育活動に反映させるよう努めている。さらに、運営方針が教育現場においてより一層共有・理解されるよう、教職員全員が参加する全体会議をはじめ学年教員会議や管理職会議を通じて、継続的な周知と浸透に取り組んでいる。

【課題及びその改善方策】

特になし。

| 小項目 | 評価項目 | 自己点検・ 評価結果 |
|-------|--|---------------|
| 2-1-1 | 学校の教育理念に沿った運営方針を策定しているか。また、運営方針を教職員に周知しているか。 | 2 |

中項目2-2

事業計画を作成し、執行しているか。

【取り組み状況】

本校では、運営方針に基づき事業計画を策定し、学校運営の指針として活用している。策定した事業計画については、関係する教職員に共有し、計画に沿った業務の推進に取り組んでいる。また、事業計画の執行状況については、管理職会議や教職員会議の中で適宜確認を行いながら、概ね計画どおり実施している。

【課題及びその改善方策】

特になし。

| 小項目 | 評価項目 | 自己点検・ 評価結果 |
|-------|--------------------------|---------------|
| 2-2-1 | 運営方針に沿った事業計画を策定し共有しているか。 | 2 |
| 2-2-2 | 事業計画は適正に執行されているか。 | 2 |

中項目2-3

運営組織や意思決定機関は効率的なものになっているか。

【取り組み状況】

法人において明文化された運営組織および意思決定機関の仕組みのもとで運営されている。理事長・常務理事・理事・本部長・監事が参加する常任理事会が適宜開催され、組織運営上の重要課題について合議がなされている。

また、校長代行が参加する部門長会議等、各階層別・目的別の会議体が設計されており、これらに参画し、法人方針の共有と学校運営への反映を行っている。会議は計画的に開催され、有効に機能している。

本校においては、会議運営規程に基づき各会議の役割を明確化し、全体会議、リーダー会議を月1回、管理職会議を週1回定期的に開催している。これらの会議を通じて、教育活動および学校運営に関する確認事項や決定事項を共有し、円滑な意思決定と業務推進に努めている。加えて、必要に応じて目的別の会議体を設置し、柔軟な対応を行っている。

事務体制については、事務職員を配置し、学校法人麻生塾経理グループが担当する経理業務を除く事務については、校内の事務組織において適切に処理している。さらに、事務職員の意欲および資質・能力の向上を図るため、目標管理シートを活用したチャレンジ目標の設定を行い、中間および期末の面談を通じて取り組み状況の確認と助言を実施している。

【課題及びその改善方策】

現行の運営体制は概ね適切に機能していることから、大きな課題は認められない。今後も、安定した運営体制の維持に努めるとともに、会議運営や情報共有の在り方について継続的に点検を行っていく。

| 小項目 | 評価項目 | 自己点検・評価結果 |
|-------|---|-----------|
| 2-3-1 | 法人の運営組織や意思決定機能は規程等において明確化されているか。また有効に機能しているか。 | 2 |
| 2-3-2 | 学校あるいは部門の運営組織や意思決定機能は明確化されているか。また有効に機能しているか。 | 2 |
| 2-3-3 | 運営会議(教職員会議・教員会議等)が定期的に行われているか。 | 2 |
| 2-3-4 | 学校業務を支援する事務組織が設置され、十分に機能しているか。 | 2 |
| 2-3-5 | 事務職員の意欲や資質・能力の向上を図るための方策を講じているか。 | 2 |

中項目2-4

人事・給与に関する制度を確立しているか。

【取り組み状況】

法人で整備された雇用区分ごとの就業規則および各種人事諸規程、労使協定に基づき運営している。これらは法令を遵守して整備されている。また、法人の運営方針や労働関連法令の改正に応じて規程の見直し・改定が行われており、その内容を教職員へ周知し、適切な運用に努めている。

法人で定められた給与規程(または一部雇用形態については就業規則)に基づき、法令を遵守した給与制度のもとで運用している。これらの規程は法人内共有フォルダ等を通じて教職員に公開されており、本校においても透明性の確保に努めている。

法人で整備された昇給・昇格制度を含む人事制度に基づき運営している。制度内容は教職員に公開されている。また、法人の基本方針を踏まえつつ、社会情勢や物価動向等を勘案し制度の見直しが適宜行われており、その運用において公平性・妥当性の確保に努めている。

法人で定められた採用規程に基づき、適切な募集・採用を行っている。採用にあたっては、当該部署の責任者が採用稟議を起案し、求める人物像を明確にしたうえで選考を実施している。また、法人本部および関係部門と連携した採用体制のもと、面接から内定判断まで規程に則って運用している。さらに、選考状況や内定辞退の状況等を確認し、採用プロセスの妥当性について検証を行っている。

【課題及びその改善方策】

特になし

| 小項目 | 評価項目 | 自己点検・評価結果 |
|-------|-----------------------|-----------|
| 2-4-1 | 人事に関する制度を整備しているか。 | 2 |
| 2-4-2 | 給与に関する制度を整備しているか。 | 2 |
| 2-4-3 | 昇給・昇格制度を整備しているか。 | 2 |
| 2-4-4 | 教職員の募集・採用は適切に行われているか。 | 2 |

中項目2-5

情報システム化等による業務の効率化が図られているか。

【取り組み状況】

本校では、麻生塾システムを活用した広報、入試、学籍、教務、就職情報の一元管理を継続するとともに、Microsoft 365 を活用した情報共有や文書管理を推進し、業務の効率化を図っている。

また、今年度から出席管理システムとして Manabie を試行的に導入し、出席管理業務のシステム化に取り組んでいる。一方で、現段階では入力作業等に多くの工数を要している状況も見られるため、運用方法の見直しや改善を行いながら、来年度の本格導入に向けた検証と準備を進めている。

【課題及びその改善方策】

情報システム化による業務効率化は一定程度進んでいるものの、今年度から導入した出席管理システム Manabie については、入力作業等に多くの工数を要しており、運用面での負担が課題となっている。また、授業におけるデジタルツールの活用についても、十分に定着しているとは言い難い状況である。

今後は、Manabie の運用方法の見直しや教職員向けの活用研修を行い、入力負担の軽減と運用の定着を図るとともに、来年度の本格導入に向けた検証を進める。併せて、授業における情報システム活用の在り方についても検討を行い、業務効率化と教育の質の向上の両立を目指す。

| 小項目 | 評価項目 | 自己点検・評価結果 |
|-------|----------------------------|-----------|
| 2-5-1 | 情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか。 | 1 |

=====
 基準 3 教育活動
 =====

中項目3-1

教育理念、教育目標(育成人材像)に沿った教育課程を編成・実施しているか。

【取り組み状況】

本校では、教育目標(育成人材像)に基づき定めた課程修了の方針(ディプロマ・ポリシー)に沿って、学則や成績評価、進級および卒業に関する規程に基づく教育課程を継続的に実施している。これらの方針については、公式ホームページ等を通じて社会に公表するとともに、教職員および学生に対して周知を図るとともに管理職会議やカリキュラム会議で検証を行っている。

また、自動車工学・機械設計科においては、今年度より4年課程を開始しており、教育理念および教育目標(育成人材像)に基づき、ディプロマ・ポリシーに整合したカリキュラム・ポリシーのもとで教育課程を実施している。新課程の運用にあたっては、教育内容や到達目標の確認を行いながら、教育課程全体の一貫性と妥当性の確保に努めている。

【課題及びその改善方策】

自動車工学・機械設計科においては、今年度より4年課程を開始し、教育理念および教育目標(育成人材像)に基づいた教育課程の運用を進めているが、新課程の実施に伴い、科目間のつながりや学修到達度の把握について、さらなる検証が必要な段階にある。また、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーについて、学生の理解を一層深める取り組みが求められている。

今後は、4年課程における教育課程の実施状況を定期的に点検し、学修成果の把握や評価指標の活用を通じて、教育内容の妥当性を検証していく。併せて、ガイダンスや説明機会を通じて、教育方針や到達目標の周知を継続的にを行い、教育課程の改善と質の向上を図る。

| 小項目 | 評価項目 | 自己点検・評価結果 |
|-------|---|-----------|
| 3-1-1 | 教育目標(育成人材像)に基づきディプロマ・ポリシーを明示し、また学校構成員(教職員及び学生等)に周知し、社会に公表されているか。また定期的に検証を行っているか。 | 2 |
| 3-1-2 | 教育目標(育成人材像)に基づき教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)を明示し、また学校構成員(教職員及び学生等)に周知し、社会に公表されているか。また定期的に検証を行っているか。 | 2 |

中項目3-2

教育課程の編成・実施方針に基づき、教育課程・教育内容は適切に行なっているか。

【取り組み状況】

本校では、教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)に基づき、授業科目を適切に開設し、体系的な教育課程の運用を継続して行っている。昨年度に整備したカリキュラムマップを活用し、科目間の関連性や学修の流れを教職員間で共有することで、教育内容の一貫性と到達目標の明確化を図っている。

また、業界のニーズを踏まえ、専攻分野に関連する企業や関係施設、業界団体との連携を継続し、実践的な職業教育の視点から教育内容の充実に努めている。授業および実習については、シラバスおよびコマシラバスを作成し、これに基づいた計画的な授業運営を行っており、授業報告書等の記録についても適切に管理・共有している。

さらに、企業協力授業やインターンシップ等の実践的な職業教育を教育課程に体系的に位置付け、学生が専門的知識や技能を実践の場で学ぶ機会を確保している。加えて、「就職実務」等の授業を通じて、職種理解セミナーや卒業生の体験談を活用したキャリア教育を行い、学生の社会的・職業的自立に向けた能力や態度の育成を継続的に推進している。

【課題及びその改善方策】

企業連携による実践的な職業教育は継続的に実施されているものの、その教育効果や学修成果の把握については、さらなる整理が必要である。今後は、企業連携プログラムの目的や到達目標を明確化し、業界動向を踏まえた教育内容の見直しを行うとともに、学修成果を評価・共有する仕組みを整備し、教育の質の向上を図る。

| 小項目 | 評価項目 | 自己点検・評価結果 |
|-------|--|-----------|
| 3-2-1 | 教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。 | 2 |
| 3-2-2 | 業界のニーズを踏まえ、実践的な職業教育の視点に立った教育内容(学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保等)が提供されているか。 | 2 |
| 3-2-3 | 専攻分野に関する企業・関係施設等や業界団体と連携して教育課程の編成を行っているか。 | 2 |
| 3-2-4 | 授業科目の目標を達成するための授業内容や授業方法になっているか。 | 2 |
| 3-2-5 | 授業及び実習に関するシラバスは作成しているか。 | 2 |
| 3-2-6 | シラバスに基づいてコマシラバスを作成しているか。 | 2 |
| 3-2-7 | 授業はシラバス及びコマシラバスに基づいて実施しているか。 | 2 |
| 3-2-8 | 専攻分野における実践的な職業教育(インターンシップ、企業等と連携した実習・演習等)を教育課程に体系的に位置づけ、実施しているか。 | 2 |
| 3-2-9 | キャリア教育を行ない、学生の社会的・職業的自立に向け必要な基盤となる能力や態度を育成しキャリア発達を促しているか。 | 2 |

中項目3-3

教育の評価を適切に行っているか。

【取り組み状況】

授業評価体制に基づき、学生による授業アンケートを定期的を実施し、教育内容や授業方法が授業科目の目標に沿っているかを確認している。アンケート結果は教員へフィードバックされ、各教員が授業内容や指導方法の振り返りを行う機会として活用されている。これにより、授業改善に向けた意識の共有と、教育の質向上に向けた継続的な取り組みを行っている。

【課題及びその改善方策】

授業評価は継続的に実施されているものの、評価結果を組織的な授業改善へ十分に反映させる仕組みについては、さらなる充実が求められる。今後は、アンケート結果の活用方法を明確化し、教員間での情報共有や好事例の展開を進めるとともに、授業改善の取り組み状況を確認・検証する体制を整備し、より効果的な教育改善につなげていく。

| 小項目 | 評価項目 | 自己点検・評価結果 |
|-------|--|-----------|
| 3-3-1 | 授業評価体制を整備しているか。 | 2 |
| 3-3-2 | 学生によるアンケート等で定期的に授業評価を実施しているか。 | 2 |
| 3-3-3 | 授業科目の目標に照らし、教育内容・授業方法が適切であるか確認しているか。 | 2 |
| 3-3-4 | 授業評価の結果を教員にフィードバックしているか。 | 2 |
| 3-3-5 | 授業評価の結果をもとに、授業内容・授業方法の改善を図るための取り組みを行っているか。 | 2 |

中項目3-4

成績評価と単位認定を適切に行っているか。

【取り組み状況】

成績評価・単位認定、進級・卒業判定については、各種規程および「期末成績・評価実施要領」に基づき、引き続き適切に運用している。成績評価基準や進級・卒業要件については、学生に対してはオリエンテーションや授業内で明示するとともに、成績入力表を活用して評価結果の可視化を行い、保護者に対しては入学式後に保護者説明会を実施し成績評価基準や進級・卒業要件について説明を行うことで、公平性・透明性の確保に努めている。また、進級・卒業判定会議を適切に実施し、規程に基づいた厳正な判定を行っている。

【課題及びその改善方策】

4年課程における学修段階の長期化を踏まえ、科目間や学年間での成績評価の整合性をより一層高める必要がある。今後は、職業実践専門課程・教育課程編成委員会等での意見を参考に、期末試験や確認テストの内容・評価方法を継続的に見直し、評価基準の共通理解を深めることで、成績評価・単位認定の精度向上を図っていく。

| 小項目 | 評価項目 | 自己点検・ 評価結果 |
|-------|---|---------------|
| 3-4-1 | 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか。 | 2 |
| 3-4-2 | 学生や保護者等に、成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準、進級要件、卒業要件を適切に明示しているか。 | 2 |
| 3-4-3 | 各規程に基づいて適切に成績評価・単位認定、進級・卒業判定を行っているか。 | 2 |

中項目3-5

教育活動を確実に実践するために、教育体制の整備を適切に図っているか。また教員の能力開発のための資質向上の取り組みを行っているか。

【取り組み状況】

教育活動を確実に実践するため、法令に基づき学校の教育理念・教育目標の達成に必要な教員配置を維持するとともに、教員の組織体制を適切に整備している。また、教員の資質・能力向上を目的として、学内研修や外部研修への参加を計画的に進め、専攻分野に関連する企業や業界団体と連携した実務研修にも取り組んでいる。さらに、企業等との連携を通じて、実務に即した知識・技能の習得や指導力・教授力の向上を図り、教育の質の向上に努めている。

【課題及びその改善方策】

教員研修については、一定の取り組みは進んでいるものの、研修内容の体系化や成果の共有・活用が十分とは言えない点が課題である。今後は、年間研修計画をより具体化するとともに、研修成果を教員間で共有する仕組みを整備し、授業改善や指導力向上につなげていく。また、企業等との連携を一層強化し、実務に即した研修機会の充実を図ることで、教員の専門性および教育力のさらなる向上を目指す。

| 小項目 | 評価項目 | 自己点検・評価結果 |
|-------|---|-----------|
| 3-5-1 | 法令に則り、学校の教育理念・教育目標の達成に必要な教員を確保しているか。 | 2 |
| 3-5-2 | 教員の組織体制を整備しているか。 | 2 |
| 3-5-3 | 教員に必要な知識・技能を身に付け、資質・能力の向上を図るための取り組みを行っているか。 | 2 |
| 3-5-4 | 教員に対して、専攻分野に係る関連分野の企業等と連携して、実務に関する研修・研究に組織的・計画的に取り組んでいるか。 | 2 |
| 3-5-5 | 教員に対して、企業等と連携して、指導力・教授力を習得、向上するための取り組みを行っているか。 | 2 |

=====
 基準 4 学修成果
 =====

中項目4-1

学科ごとに学生の学修成果を中心とした目的・目標を設定して教育活動を行い、多様な視点から成果の達成状況を把握し、改善に活用しているか。

【取り組み状況】

学科ごとに学修成果を中心とした目的・目標を設定し、就職率や資格取得率の向上を目指した教育活動および就職指導を継続して実施している。就職状況や資格取得状況については結果を把握・分析し、指導内容や学生支援の改善に活用している。また、資格取得についてはカリキュラム内に体系的に位置づけて段階的な指導を行っており、2025年3月に実施された整備士登録試験においては一級・二級ともに受験者全員合格を達成した。

一方、退学防止に向けて個人面談や保護者との連携、学習状況の把握を行っているものの、退学率の低減には十分な成果が得られていない状況である。

【課題及びその改善方策】

退学率低減に向けた取り組みが十分な成果に結びついていない点が課題である。今後は、学修状況や出席状況の変化を早期に把握できる仕組みを強化し、初期段階からの支援体制を充実させる。また、学修成果や成長を実感できる機会を増やすことで学習意欲の向上を図り、個別支援と組織的対応を組み合わせた退学防止策を推進していく。

| 小項目 | 評価項目 | 自己点検・ 評価結果 |
|-------|---|---------------|
| 4-1-1 | 就職率・就職者の割合の向上の取組みを行っているか。また結果を分析し、就職指導・支援の改善を図っているか。 | 2 |
| 4-1-2 | 退学率の低減が図られているか。また結果を分析し、退学率を低減させる取組みを行っているか。 | 2 |
| 4-1-3 | 資格取得率、公務員合格率及びコンテスト・コンペ入選数の向上の取組みを行っているか。また結果を分析し、教育活動及び学生支援の改善を図っているか。 | 3 |
| 4-1-4 | 資格取得等に関する指導体制及びカリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。 | 2 |

中項目4-2

卒業生の社会的な活躍および評価を把握しているか。

【取り組み状況】

卒業生の専攻分野におけるキャリア形成への効果を把握する必要性を認識し、就職先企業や関係者との意見交換、就職指導を通じた情報収集に取り組んでいる。また、卒業生の動向を教育活動に活かすための調査方法や活用の在り方について、学内で検討を進めている。

しかし、卒業後の就業状況や具体的な職務内容を体系的に把握する仕組みは未整備であり、収集した情報を教育課程や指導方法の改善に十分反映するまでには至っていない。

【課題及びその改善方策】

卒業生の就業状況や職務内容を体系的に把握する仕組みが十分に整備されておらず、卒業後のキャリア形成に関する情報を教育活動の改善に活かしきれていない。このため、今後は卒業生アンケートや就職先企業へのヒアリングを定期的実施し、卒業後の動向を継続的に把握する体制を構築するとともに、得られた情報を教育課程編成や指導方法の見直しに活用していく。

| 小項目 | 評価項目 | 自己点検・ 評価結果 |
|-------|--|---------------|
| 4-2-1 | 卒業後の専攻分野におけるキャリア形成への効果を把握しているか。また、それを踏まえ教育活動等の改善を図っているか。 | 1 |

=====
 基準 5 学生支援
 =====

中項目5-1

学生に対する修学支援、生活支援、進路支援に関する支援組織体制を整備し、学生が学修に専念し、安定した学生生活を送ることができるように図っているか。

【取り組み状況】

学生が学修に専念し、安定した学生生活を送ることができるよう、修学支援・生活支援・進路支援に関する体制を継続して整備・運用している。

就職・進路支援については、担任および就職専任スタッフが連携し、個別面談や求人情報の提供、就職指導を行い、学生一人ひとりの進路実現に向けた支援を実施している。

学生相談に関しては、カウンセラーやハラスメント相談体制を維持し、学生便覧や二次元コードを活用して相談窓口の周知を図っている。

経済的支援では、日本学生支援機構奨学金や法人独自の奨学金、学費分納制度を適切に運用し、必要な学生への案内を行っている。

健康管理面では、定期健康診断の実施や AED 設置等により、安全・安心な学習環境を確保している。また、直営・提携寮の運営を通じて学生の生活環境を支援している。

保護者との連携については、担任を中心に保護者会や三者面談を実施し、学生の状況共有と支援体制の強化を図っている。さらに、課外活動については顧問教員を配置し、学生の自主的な活動を支援している。

入学前教育の学習支援に関しては、オンライン教材を使用して、入学前から学習の準備を支援している。

【課題及びその改善方策】

現行の支援体制は概ね機能しているものの、学生の多様化に伴い、支援内容の周知や活用状況に差が生じる可能性がある。今後は、各種支援制度や相談体制について、より分かりやすい情報発信を行うとともに、学生の状況を早期に把握できる仕組みを強化し、必要に応じた個別支援を一層充実させていく。

| 小項目 | 評価項目 | 自己点検・ 評価結果 |
|-------|----------------------------------|---------------|
| 5-1-1 | 学生の就職・進路支援を適切に行っているか。 | 2 |
| 5-1-2 | 学生相談に関する体制を整備しているか。 | 2 |
| 5-1-3 | 学生の経済的側面に対する支援制度を整備し、適切に運営しているか。 | 2 |

| | | |
|-------|----------------------------------|---|
| 5-1-4 | 学生の健康管理を担う組織体制はあるか。 | 2 |
| 5-1-5 | 学生の生活環境への支援を行っているか。 | 2 |
| 5-1-6 | 保護者等との連携を適切に行っているか。 | 2 |
| 5-1-7 | 学生の課外活動に対する支援を適切に行っているか。 | 2 |
| 5-1-8 | 学生に対する修学支援体制を整備しているか。 | 2 |
| 5-1-9 | 入学前教育や学力不足を補う補習教育などの学習支援を行っているか。 | 2 |

=====
基準 6 教育環境
=====

中項目6-1

教育運営に支障を生じさせないように教育設備を整備しているか。

【取り組み状況】

教育運営に支障を生じさせないように、教育上の必要性に対応した施設・設備の整備および維持・管理を継続して行っている。校内施設については、安全・衛生面に配慮した点検や管理を実施し、安定した教育環境を確保している。実習車については、教育内容や業界動向を踏まえ、計画的な入れ替えを引き続き進めており、実践的な教育に必要な機材・備品の整備を行っている。

また、図書コーナーについては、利用規定を整備し、利用方法や注意事項を明確化することで、学生が安心して継続的に利用できる体制を整えた。これにより、学習環境の充実と図書コーナーの安定的な運用が図られている。

【課題及びその改善方策】

施設・設備および機材・備品は概ね適切に整備されているが、教育内容の高度化や実習内容の変化に対応するため、今後も計画的な更新と点検が求められる。引き続き、実習車や教育機材の更新計画を検証しながら整備を進めるとともに、図書コーナーについては利用状況を把握し、必要に応じて蔵書の充実や運用方法の見直しを行い、教育環境のさらなる向上を図る。

| 小項目 | 評価項目 | 自己点検・ 評価結果 |
|-------|--|---------------|
| 6-1-1 | 教育上の必要性に対応した施設・設備を整備し、維持・管理、安全・衛生を確保しているか。 | 2 |
| 6-1-2 | 教育上の必要性に対応した機材・備品を整備しているか。 | 2 |
| 6-1-3 | 図書室・図書コーナーがあり、図書館サービスは十分に機能しているか。 | 2 |

中項目6-2

教育環境を適切に維持しているか。

【取り組み状況】

教育環境を適切に維持するため、安全管理体制の整備や設備の保守管理を継続して行っている。消防計画に基づく安全管理体制は維持されており、学内設備についても定期的な点検・管理を実施している。

また、学内外の実習施設やインターンシップについては、教育目的に沿った体制を整備し、企業と連携した実習や体験型学習を継続的に実施している。

一方で、防災訓練については、年度内に計画どおり実施することができず、十分な取り組みには至っていない状況である。

【課題及びその改善方策】

防災訓練が未実施となっており、非常時対応力の維持・向上に課題がある。今後は、防火管理者を中心に年間計画を明確化し、関係部署と連携した防災訓練を確実に実施する体制を構築する。また、訓練内容についても実践性を高め、学生・教職員の防災意識と対応力の向上を図るとともに、設備の保守管理についても引き続き点検体制の強化を進めていく。

| 小項目 | 評価項目 | 自己点検・評価結果 |
|-------|---|-----------|
| 6-2-1 | 学校における安全管理体制の整備を行っているか。 | 2 |
| 6-2-2 | 定期的に防災訓練を実施しているか。 | 1 |
| 6-2-3 | 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか。 | 2 |

=====
 基準 7 学生募集
 =====

中項目7-1

学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。

【取り組み状況】

入学者受け入れ方針(アドミッション・ポリシー)を引き続き明確に定め、募集要項やホームページ等を通じて、教職員・学生を含む学校構成員および社会に対して周知・公表している。

学生募集においては、パンフレットやウェブ媒体を活用し、教育内容や就職実績、資格取得状況などの教育成果を正確に発信し、受験希望者が適切に進路判断できるよう努めている。

また、入学者選抜については、受け入れ方針に基づき、選考基準や手続きを明確にした上で、公正かつ適切に実施している。校納金についても、教育内容や学修環境を踏まえ、妥当な水準で設定・運用している。

【課題及びその改善方策】

現状では大きな課題は見られないが、今後の社会環境や志願者動向の変化を踏まえ、募集情報の内容や発信方法について継続的な見直しが求められる。今後は、教育成果の見せ方や情報発信の充実を図るとともに、入学後の学修成果や進路実績を分析し、学生募集のさらなる質の向上につなげていく。

| 小項目 | 評価項目 | 自己点検・評価結果 |
|-------|---|-----------|
| 7-1-1 | 入学者受け入れ方針(アドミッション・ポリシー)を策定し、学校構成員(教職員及び学生等)に周知し、社会に公表しているか。 | 2 |
| 7-1-2 | 募集活動において、教育成果を含めた学校情報は正確に伝えているか。 | 2 |
| 7-1-3 | 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集を行っているか。 | 2 |
| 7-1-4 | 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に入学者選抜を行っているか。 | 2 |
| 7-1-5 | 校納金(学生納付金)等は妥当なものとなっているか。 | 2 |

=====
 基準 8 財務
 =====

中項目8-1

教育活動を安定的かつ継続的に進めるため、財務基盤が安定し、適正な財務管理、監査の実施及び情報の公開を行っているか。

【取り組み状況】

財務基盤は安定しており、貸借対照表や資金収支計算書にみる各種残高および基本金積み上げ額は、学生に必要なかつ快適な教育環境を提供できる十分な財務体質を備えているといえる。

教育活動を安定的かつ継続的に実施するため、財務基盤の維持・安定化を図り、事業計画および予算計画に基づいた適正な財務管理を行っている。予算編成にあたっては、教育活動や施設・設備整備の必要性を踏まえ、実効性と妥当性を考慮した計画を策定し、計画に沿った執行管理を行っている。

学校の管理、運営体制については、学校法人麻生塾経営企画グループと学校法人麻生塾経理グループが中心となり、予算計画を作成している。また、学校年度収支については、月次での予実管理を実施し、収支バランスの管理を行っている。

また、私立学校法及び寄付行為に基づき、監事による監査が適切に行われており、監査報告書を受領している。なお、ホームページにて、貸借対照表・収支計算書・財産目録・監査報告書を公開している。

【課題及びその改善方策】

現時点で大きな課題は見られないが、今後も外部環境の変化や学生数動向を踏まえ、予算と決算の差異分析を継続的に行う必要がある。引き続き、事業計画と財務状況の整合性を確認しながら、予算執行状況の把握と検証を行い、必要に応じた見直しを行うことで、安定した財務基盤の維持と教育活動の継続的な充実を図っていく。

| 小項目 | 評価項目 | 自己点検・評価結果 |
|-------|---|-----------|
| 8-1-1 | 教育活動を安定して遂行するために必要かつ十分な財政的基盤を確立しているか。 | 2 |
| 8-1-2 | 予算計画は有効かつ妥当なものとなっているか。また事業・予算計画に基づき適正に執行管理されているか。 | 2 |
| 8-1-3 | 私立学校法及び寄附行為に基づき適切に監査を実施し、理事会、評議員会に報告しているか。 | 2 |
| 8-1-4 | 財務情報公開の体制を整備し、適切に公開しているか。 | 2 |

=====
基準 9 法令遵守
=====

中項目9-1

法令、専修学校設置基準等を遵守し、適正に学校運営を行なっているか。

【取り組み状況】

法令および専修学校設置基準等を遵守し、関係法令に基づく学内諸規程を整備・運用することで、適正な学校運営を継続している。法令改正については、法人本部と連携しながら情報共有を行い、必要に応じて規程の確認や見直しを実施している。

また、教職員に対して法令遵守の重要性を周知し、規程に基づいた業務遂行を徹底している。加えて、法令遵守違反が発生した場合に備え、通報・相談体制を維持し、問題発生時には迅速に対応できる体制を整えている。

【課題及びその改善方策】

法令遵守体制は整備されているものの、法令改正へのより迅速な対応や、教職員への継続的な再教育の充実が求められる。今後は、法令遵守に関する研修や情報共有の機会を定期的に設けるとともに、通報・相談体制の周知を一層進め、教職員の理解と意識向上を図ることで、より実効性の高い法令遵守体制の構築を進めていく。

| 小項目 | 評価項目 | 自己点検・評価結果 |
|-------|--------------------------------------|-----------|
| 9-1-1 | 法令、専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか。 | 2 |
| 9-1-2 | 関係法令に基づく管理運営に関する学内諸規程を整備し適切に運用しているか。 | 2 |

=====
 基準10 内部質保証
 =====

中項目10-1

教育の質を保証する仕組みを構築し、教育内容等について自己評価を行い、課題解決に取り組んでいるか。また、教育情報を積極的に公開しているか。

【取り組み状況】

学校教育および学校運営の質を保証するため、自己点検・評価を組織的に実施し、結果を踏まえた改善に取り組んでいる。今年度は、自己点検・評価の結果から重点項目を整理し、関係部署で共有したうえで、改善内容の具体化と実施に向けた検討を進めている。

また、学校関係者評価についても、体制を維持したうえで実施し、外部からの意見や助言を教育活動および運営改善に活用している。

自己点検・評価および学校関係者評価の結果については、引き続きホームページ上で公表し、社会に対する説明責任の確保に努めている。

【課題及びその改善方策】

自己点検・評価や学校関係者評価の結果を踏まえた改善は進みつつあるものの、改善内容の実行状況や効果を継続的に確認・検証する仕組みが十分に定着していない点が課題である。今後は、改善項目ごとに担当部署や責任者を明確にし、進捗管理と効果検証を定期的に行う体制を整備する。また、評価結果を教職員間で共有し、組織全体で改善意識を高めることで、教育の質向上につながる持続的な改善活動を推進していく。

| 小項目 | 評価項目 | 自己点検・評価結果 |
|--------|---|-----------|
| 10-1-1 | 学校教育、学校運営について、組織的に自己点検・評価を実施しているか。 | 2 |
| 10-1-2 | 自己点検・評価の結果に基づき、学校教育と学校運営の質の改善と向上のための取組みを組織的に、積極的かつ継続的に行っているか。 | 2 |
| 10-1-3 | 学校関係者評価の実施体制を整備し、学校関係者評価を実施しているか。 | 2 |
| 10-1-4 | 学校関係者評価結果をもとに改善の取組みを行っているか。 | 2 |
| 10-1-5 | 自己点検・評価及び学校関係者評価の結果を公表することで社会に対する説明責任を果たしているか。 | 2 |

=====
基準11 社会貢献・地域貢献
=====

中項目11-1

公共的な機関として、資源を活用して社会的な活動や地域貢献活動を行っているか。

【取り組み状況】

昨年度の取り組みを継続し、社会貢献・地域貢献活動を実施した。小学生・中学生を対象とした企業連携による職業体験授業を引き続き行い、地域のキャリア教育に貢献した。

また、学生のボランティア活動については、留学生会を中心に地域清掃活動、献血活動、地域イベントにおけるボランティア参加などを実施し、公共的な機関として教育資源や人的資源を活用した地域貢献を行った。これらの活動を通じて、学生の社会性や公共意識の醸成にも一定の効果が見られた。

【課題及びその改善方策】

一方で、ボランティア活動に関する明確なルールやガイドラインの整備が十分とは言えず、活動内容や参加方法が限定的となっている点が課題である。

今後は、ボランティア活動の目的、参加基準、活動内容、安全配慮等を整理したガイドラインを整備するとともに、学内での周知を図る。併せて、地域や関係団体との連携を強化し、学生が主体的に参加しやすい多様な活動機会を提供することで、社会貢献・地域貢献活動の質と継続性の向上を図る。

| 小項目 | 評価項目 | 自己点検・ 評価結果 |
|--------|----------------------------------|---------------|
| 11-1-1 | 学校の教育資源や施設を活用し、社会貢献・地域貢献を行っているか。 | 3 |
| 11-1-2 | 学生のボランティア活動を奨励、具体的な活動支援をしているか。 | 2 |

=====
 基準12 国際交流
 =====

中項目12-1

留学生の受け入れ、海外への留学における学習支援や生活指導等を適切に対応し、管理体制を整備しているか。

【取り組み状況】

留学生の受け入れおよび在籍管理については、昨年度に引き続き関係法令に基づく適正な手続きを徹底し、ビザ更新等についても資格を有する職員が中心となり支援を行っている。留学生の学修・生活状況の把握を目的として、クラス担任および担当主任が連携し、アンケートや日常的な面談を通じて相談対応を行い、必要に応じた助言や支援に努めた。

また、海外留学プログラムについては、麻生専門学校グループ内の留学担当部門と連携し、説明会や個別相談、事前オリエンテーション等を実施するとともに、渡航前の安全情報や準備事項について学生・保護者への情報提供を行った。留学中においては、チャットツール等を活用し、学生との連絡体制を維持し、安心して学習・生活が行えるよう支援している。

ASO INTERNATIONAL HOUSE II (日本人学生と留学生が入寮することのできる国際寮)を設け、入寮・退寮の手続き案内、請求・返金などの寮費管理を行っている。2025年度より、防火訓練を(株)共立メンテナンスに委託して実施するようにし、入寮後すぐに入寮説明と防火訓練を実施することで安全に生活できるよう理解を深めた。

【課題及びその改善方策】

留学生の受け入れや在籍管理、海外留学プログラムの事前支援体制は一定程度整備されているものの、留学後のフォローアップや帰国後の学修・キャリアへの接続支援が十分とは言えない点が課題である。

今後は、留学終了後の振り返り面談や報告の機会を設け、学修成果の把握と今後の進路指導に活かす体制を整備する。また、留学生の学修・生活指導については、アンケート結果に基づく改善に加え、生活面・学習面での個別対応をより充実させるため、担任・担当部署間の情報共有を強化し、支援体制の質の向上を図る。

| 小項目 | 評価項目 | 自己点検・ 評価結果 |
|--------|---------------------------------|---------------|
| 12-1-1 | 海外留学プログラムに対する支援を適切に行っているか。 | 2 |
| 12-1-1 | 留学生の受入れ、在籍管理等において適正な手続きを行っているか。 | 2 |
| 12-1-2 | 留学生の学修・生活指導等に対する適切な体制を整備しているか。 | 2 |